

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		どうぶつの森キルト				公表日	2026年 3月25日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		バギー利用児の多い日は定員に満たなくても利用を制限し、スペースを確保している	ハンモックやトランポリンなど場所が必要な遊びには制限がかかることがある。更なる工夫が必要。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		スタッフが少ない日はお部屋遊びを、スタッフが多数日は思い切り外遊びを、等安全を確保できる遊びを工夫している	重心児の入浴支援には複数人が必要のため更に手厚い人員確保やスタッフの成長が必要となる	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	基本的に過ごす部屋は1室とし、スタッフの目が届きやすくなっている	目が届きやすい反面、パニック時等個室を利用したいときに部屋数が少ないため、更なる構造化が望まれる	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		整理整頓を徹底し、清掃しやすく清潔を保ちやすい。部屋を大きく使い、子どもたちが活動しやすくなっている		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		安静室にスタッフの荷物が置かれている現状を改善し、完全な安静室としていきたい	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	スタッフ間でグループラインを作り、情報を共有できるようにしている	出勤の少ないパートスタッフは直接会議に参加する機会が少ない	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		当評価表にて意向を把握し、業務に反映している		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○		業務改善の為だけの会議は開催できていない。機会を設けていきたい	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現状困難であるが、将来的に考えていきたい	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		特に障害福祉未経験のスタッフには少人数で事業所内研修を行っている	対外的な研修への補助を出せていないこともあり、機会が十分とはいえない	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		子どもの現状や本人・保護者のニーズを日々の支援や送迎時のコミュニケーション等により把握し支援計画に反映させている		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			経験の少ないスタッフでは共通理解が乏しいことがあり、より詳しい研修や説明を行っていく	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			新しいスタッフには就労初期に全員分の共有が難しいことがある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		標準化されたツールの利用には至っていない	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		日々の支援を通して必要な支援及びそのねらいを踏まえ、支援計画に反映させている		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○		準備や実施はチームで行っているが、立案は児童発達支援管理責任者が行っている	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		障がいの種別に関わらずみんなで楽しめる活動を考えている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		それぞれに楽しめる時間と、短時間でもみんなで同じ楽しみを共有できるよう工夫している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		ホワイトボードにスケジュールや担当を記入しておき、他のスタッフの動きを把握し連携しやすいようにしている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○		送迎業務で終業時間が統一されず、支援終了後の振り返りは難しい
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録を複写としたことでより詳細な記録ができるようになり、後日の検証にも役立っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		基本的に半年ごとのモニタリングで見直しを行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		朝の会で自分のやりたいことを自分で発信し決定できるよう工夫している	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○		全ての利用児に対して、すべての関係機関と密な連携体制がとれているとはいえない
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎時にお聞きすることが多いが、必要に応じて電話やメールでの連絡を行っている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		児童発達支援からの利用児に限り、保育所等との情報共有を行っているが、すべての利用児にはできていない
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		現状できていない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	経験豊富なスタッフを中心に支援計画を作成している	スーパーバイズや助言を受けたいが、センター多忙にて対応困難と放課後部会で回答あり、実現できていない
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		ぜひ行いたい時間が送迎の確保、またそういったことに否定的な保護者もおられ、注意深く進めていく
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		可能な限り積極的に参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時にコミュニケーションを図る他、気になることはメールや電話にて詳しくお伝えしている	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		研修の案内などは行っていない。今後はlineを活用するなど簡便な方法で案内を増やしていきたい	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に丁寧に施行	契約から時間が経つと詳細までは覚えていてもらうことは困難であり、必要に応じて追加の説明を行う
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		主にモニタリングで行っている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		必ず紙面をみながら説明を行っている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必ずしも解決できるわけではないが傾聴し寄り添う支援を心掛けている	人に言いつらい悩みなど抱えておられないかの把握が完全ではない。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		年に二回、保護者・きょうだい児を招待してのランチ会を開催。日ごろの活動や子どもの様子を知らせていただくほかに交流の場としても機会をもっている	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		今期は送迎添乗についてご意見を頂き、すぐに対応し、安心して頂けるよう配慮を行った	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		Instagramにて配信している	配信していることの周知が徹底できていない
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		それぞれの子どもに応じた意思疎通の方法でコミュニケーションを行っている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		上記ランチ会を地域にも拡大したいと考えているが費用のこともあり、現状できていない
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		契約時や入職時に事業所内ファイルにて公表していることを伝えている	契約時や入職時は他の説明もたくさんあるためか、認識の固定が難しい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時や利用開始前に医療情報やその対応は確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	アレルギー対応に必要な児が利用することになれば、保護者・主治医に指示書を依頼する	現在に至るまで、アレルギーの対応が必要な利用児がいない
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		児の特性に応じた対応ができるよう周知するとともにスタッフに直接指導を行っている	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		安全計画など周知が徹底できていない
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		当事者が記入、スタッフ間で共有している	勤務の少ないスタッフへの共有が難しいことがある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		入職初期に虐待についての基本的な事業所内研修を行っている	心理的虐待について、考え方や判断に差が生じることがあり、統一が必要
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	身体拘束についての説明と同意は契約時に必ず行っている。児の特性に関した可能性についても説明している	拘束の可能性が著しく高い場合を除き、支援計画への反映はできていない	